近森リハビリテーション病院　理学療法科

科長　高芝潤

はじめに

2022 年は 1 病棟 13 名体制（1 ユニット 6～7 名）を基本とし、理学療法士一人あたりの 1 日の取得単位 18 単位を目標とした運営を行った。また、各ユニットにつき主任 1 名、もしくは療法士長 1 名の管理体制をとり、ユニットの運営を行った。また、新人が 4 名入職し、コロナ禍の中での教育体制充実と、学術活動の強化を模索した。

運営・取り組み

4 月からの人員は入院 54 名、外来 2 名の体制で運営を開始となり、スタッフ一人当たり 18 単位の訓練実施を目標に進めた。

コロナ感染症の拡大に加えて病床稼働率の低下が続き、対象となる患者数が減少していたが、提供単位数をできるだけ充実できるよう調整を行った。しかし、患者一人当たりの実施単位数は、平均で 3.3 単位に留まり前年度より減少（前年度 3.6 単位）となった。これは感染対策として、フロア単位での業務となり人員的な効率性が低下したことに、加えてコロナ感染症に関連した欠勤が続き、人員調整と単位調整に難渋した影響で患者当たりの単位数増加に繋がらなかったためと考えられる。また、教育面では日本理学療法士協会の新生涯学習制度が開始となり、院内研修の取り組みについて代表者を選出し、法人内で年間 8 回の研修会及び 3 回の症例検討会を計画的に実施することができた。また、学術活動については、集合形式での学会が再開となり、神経理学療法学会へ 2 演題の発表を進めることができた。加えて論文投稿では 1 編海外紙で採用された。

実　績

新規入院患者のうち、理学療法を実施した患者の疾患内訳では、脳血管疾患が 78%と多くを占めているが運動器、及び廃用症候群の増加を認めた。(図１)。「月別述べ入院患者実施単位数」は平均 16409 単位と 2021 年と比較し入院患者数の違いはないが、単位実施の増加にはつながっていた。(図２)。また、患者の 1 人あたりの実施単位数は 3.3 単位を取得し、患者一人あたりへの関わりは平均 1 時間以上を維持しており、訓練量を維持し訓練の質も担保できていた。

外来の「月別述べ外来患者実施単位数」は、2021 年度から外来リハビリテーション診療料を導入し、訓練頻度を確保したことで実施単位数の増加に繋がったと考える。(図３)。

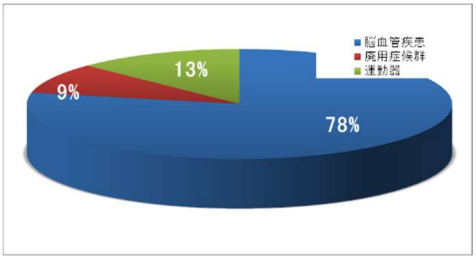

図１　年間入院患者疾患内訳

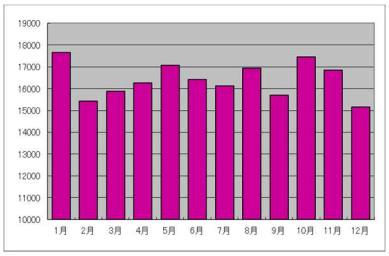

図２　月別延べ入院患者実施単位数

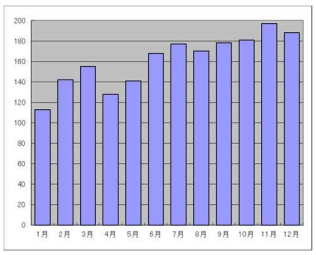

図３　月別延べ外来患者実施単位数

おわりに

2022 年は、2021 年に引き続き効率的な業務を目標に理学療法科の運営を進めた。病床稼働率の低下がある中で単位の維持に努めてきた。2023 年も継続し、実施単位数の維持を図るとともに質の向上と患者満足度の向上を目標に、スタッフ教育の充実、個々のレベルアップに努めていきたい。

学術発表・講演会等

学会発表

演題	発表者 共同研究者	学会名	開催
脳卒中片麻痺患者に対する機能的電気刺激とトレッドミル歩行練習の併用の試み	照井　あゆみ 高芝潤、安村広之、川渕宏美、森岡周	第 20 回日本神経理学療法学会学術大会	10 月 15～16 日 大阪
理学療法士による AFO とショートタイプ AFO の選定に関する因子の探索	安村広之 高芝潤、森岡周	第 20 回日本神経理学療法学会学術大会	10 月 15～16 日 大阪

論文発表・著書

タイトル	執筆者 共同執筆者	掲載誌 出版社	巻・号 ページ
Effect of disturbance stimulation using a split-belt treadmill on a patient with cerebellar ataxia: a case report	Saho Myojin , Hiroyuki Yasumura , Jun Takashiba , Shu Moriok	Journal of Medical Case Reports .	(2023) 17:58